

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
1流通単元の株式数	1株
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日、その他必要ある場合はあらかじめ公告する一定の日 中間配当を行う場合は9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター（〒168-0063） 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

（お知らせ）
住所変更、端株株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、下記株主名簿管理人のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。
●フリーダイヤル 0120-87-2031（24時間受付：自動音声案内）
●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

公告方法 電子公告
<http://www.jfe-systems.com/ir/houtei.html>
但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所 東京証券取引所

<http://www.jfe-systems.com>

当社のホームページでは、
投資家のみなさま向けの「IR情報」をはじめ、
最新のニュースをお知らせする「What'New」、
お客様の導入実績をご紹介する「実績紹介」など、
様々な情報を公開しています。

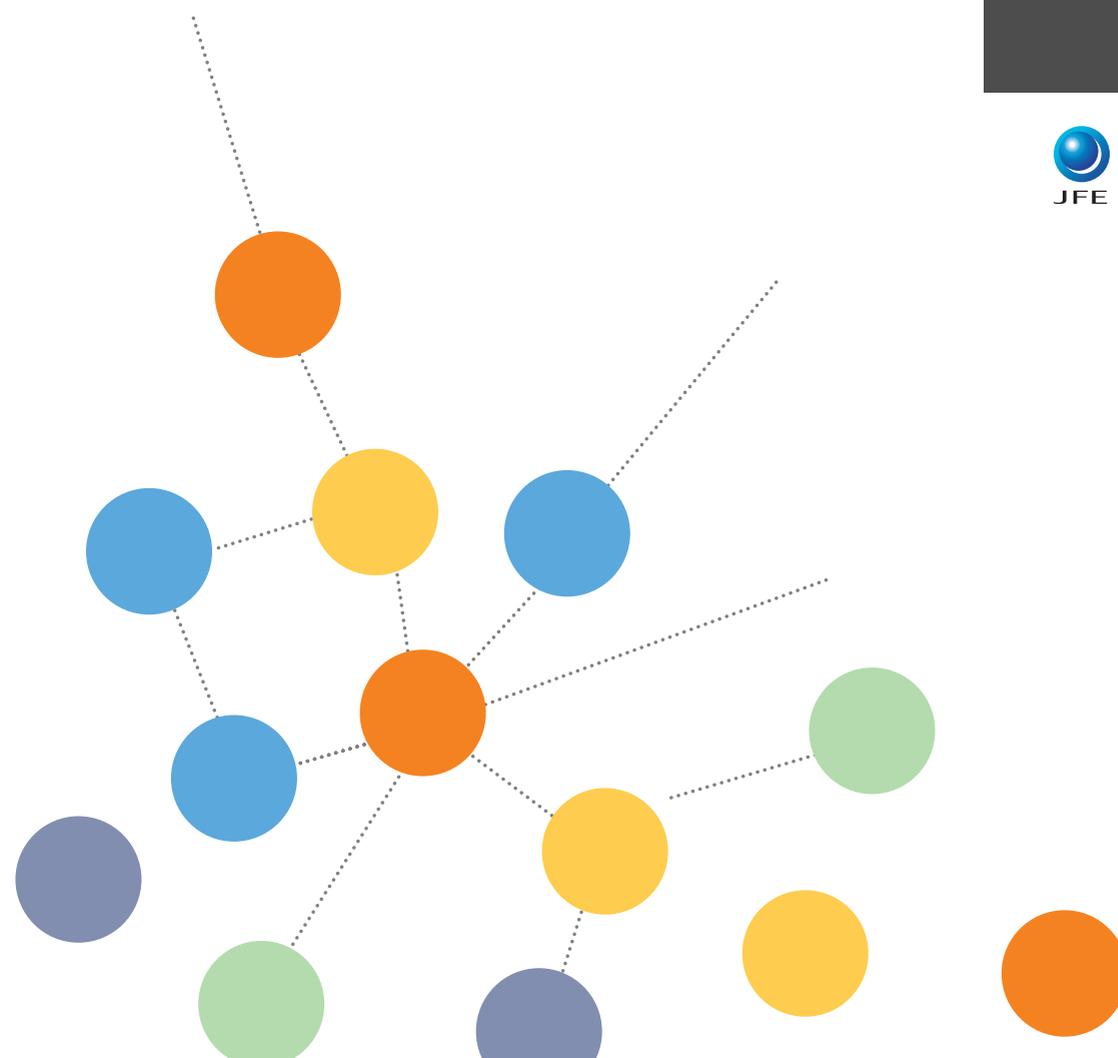


株主の みなさまへ

2007年3月期ご報告
2006年4月1日～2007年3月31日

 JFE システムズ 株式会社
JFE

証券コード：4832



**CS(顧客満足)
軸の経営を推進し、
受注力強化、事業拡大を
目指します。**



株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当期は、上期においてシステム開発案件の中止に伴う特別損失を計上いたしましたが、リカバリー対策に取り組んだ結果、下期の業績は計画通り推移し、連結売上高および連結経常利益は2期連続で増収増益を達成することができました。

中期経営計画の重点課題である「安定的顧客基盤の確立」に関しては製造、金融、通信などの分野で有力な安定顧客からの取引拡大に成功しました。また、「コアソリューションの装備」に関する食品や電子帳票の分野のソフトウェア商品で新機軸を打ち出すとともに、緊急地震情報配信などの新たなサービスもスタートさせました。当社は引き続きCS（顧客満足）軸の経営を推進し、抜きん出た、特色ある技術・サービスによって、競争力をさらに高めてまいりたい所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取組みについてご理解をいただき、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2007年6月
代表取締役社長 岩橋 誠

Q CS軸経営とは？

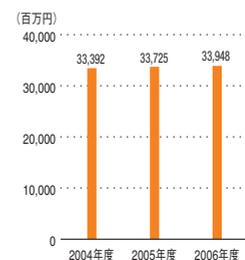
当社は「お客様のサクセスが私たちの誇りです」を合言葉に、CSを最優先した活動を行っています。当社のCSは単に顧客満足を高めるということだけにとどまらず、当社ならではの強みや特長を發揮して、顧客から選ばれる存在になることを目標としています。

また先般の不採算案件の反省の一環としてチェック体制を見直しただけでなく、顧客から見た当社の位置づけについてあらためて確認すべく、約3ヶ月をかけてCS調査を実施し、主要顧客数十社から当社の客観的な評価をしていただく活動を行いました。その結果から浮かび上がった当社の強み、弱みそして当社の立ち位置を再確認することにより、さらなるCS向上活動を行っていく考えです。

Financial Highlights

財務ハイライト

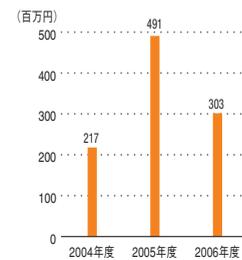
売上高



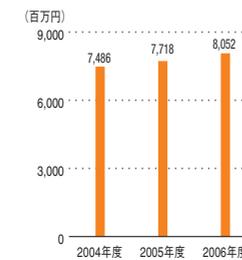
経常利益



当期純利益



純資産



1株当たり当期純利益



1株当たり純資産



中期経営計画 収益基盤強化に向けて

“安定的顧客基盤の確立”

“当社固有のコアソリューションの装備”

“開発要員体制の強化”

Review of Operations

セグメント別営業の概況

Q 有力顧客からの新規受注が 拡大しているようですが？

当社の強みの源泉はやはり鉄鋼業で培った技術力にあります。最近ではJFEスチール様発足に伴う非常に大規模なシステム統合・リフレッシュを成功させました。当社は上場しているITサービス業界では数少ない製造業を基盤とするITベンダー（*1）であり、日本の製造業の発展に寄りたいという気概を持って事業に取り組んでいます。現在、製造業のお客様のほとんどがグローバルな拠点を持って活動されており、これを日本で一元的に集約してコントロールしたいというニーズが非常に強くなっています。このご要望を実現するために、当社の強みである365日24時間安定稼働を保証する高い品質と、事業環境の変化に柔軟に対応できるシステム構築技術を役立てていきたいと考えています。このような長年にわたって蓄積された技術力は製造業に留まらず、金融や通信といった多くの業界のお客様にも高く評価され、有力な大手のお客様との取引拡大につながっています。

（*1）vender：製品やサービスの供給元

Q 当社独自のプロダクト展開は 今後どのように進めていきますか？

大規模で複雑なシステムを一から作り上げるという技術に加えて、当社の大きな特長は、独自の着想・技術に基づくソフトウェアプロダクトの開発と販売を行ってきたことです。特に電子帳票システムや食品業界向け品質管理システムは国内でもトップシェアを誇っています。また、企業のBCM（事業継続管理）ニーズの高まりに対応したサービスとして、IT資産統合運用サービスを提供するとともに、昨年は緊急地震情報配信サービスも新たに立ち上げました。当社ならではのプロダクト・ソリューションは競争力および収益の源泉であるとの認識を強め、それらの開発、展開を加速させてまいります。なお、これらの方針に沿った活動を円滑かつ効果的に進めるため、本年4月に顧客別営業とプロダクト・ソリューション営業をミッションとする営業体制に転換すべく、組織改正を行いました。

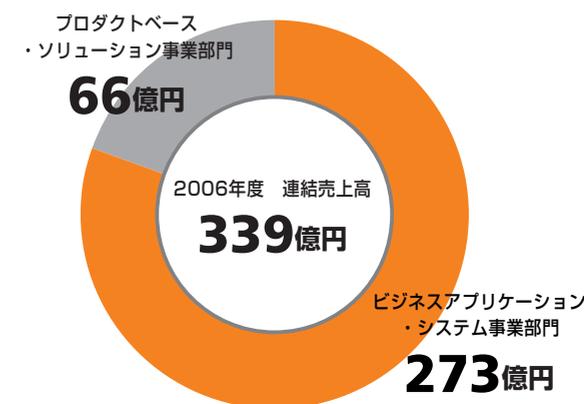
Q JFEスチール向けの事業の見通しは？

鉄鋼業は他の産業に先駆けて製造ラインの自動化やSCM（*2）の効率化、経営管理の迅速化などにITを積極的に活用し、膨大な情報システム資産を保有しています。

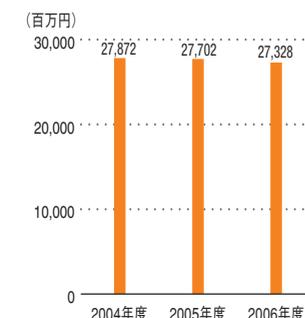
JFEスチール様は経営統合を機に本社系を中心とした情報システムのリフレッシュを完遂させましたが、今後は製鉄所の製造ライン向けの戦略的なIT投資や、海外展開に対応した情報システム構築が活発化すると予想しています。

当社は、JFEグループのIT化を担う中核企業の一つとしてそれらの企画・推進に積極的に参画し、ITによる競争力強化を支えていきたいと考えています。そのために社内の人材育成・技術伝承に重点的に取り組むとともに、国内外に幅広く戦略的提携先を求めるなど、積極的活動を展開してまいります。

（*2）supply chain management：事業活動の川上から川下までをコンピュータを使って総合的に管理すること

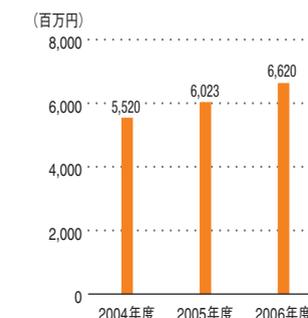


ビジネスアプリケーション・システム事業部門 （多様な業務ニーズに対応したシステム構築）



新統合システムの完了に伴いJFEスチール株式会社向けの売上高が減少したものの、JFEグループ会社向けのリフレッシュ案件の増加、自動車およびプロセス型製造業向けならびに金融業界向けの有力顧客からの売上増により挽回し、当期の連結売上高は前期比1.3%減にとどまり27,328百万円となりました。

プロダクトベース・ソリューション事業部門 （ソフトウェア商品の開発、販売および適用）



コンタクトセンターシステムおよびデータベースアプリケーションシステムで有力顧客向けの大型案件を受注し、食品品質情報管理システムおよび電子帳票システムでも売上高が増加したことにより、当期の連結売上高は前期比9.9%増の6,620百万円となりました。

株主のみならず、もっと身近なイメージで当社の事業内容をご理解いただきたく、当社のお客様を紹介するコーナーを新設しました。今回は、10年以上の長いお付き合いをいただいておりますユーシーカード株式会社（以下、UCカード様）を訪問し、システム開発部シニアマネージャーの浦瀬様に、当社に対するご感想や今後の期待についてお話を伺ってきました。



UC MasterCard & UC VISA

ユーシーカード株式会社

【会社概要】

本社所在地：東京都港区台場2-3-2台場フロンティアビル

資本金：5億円

取引高：2,976,765百万円（2007年3月期）

従業員：716人（2007年3月末）

事業内容：クレジットカードの取扱いに関する業務、
金銭の貸付ならびに信用保証業務など

URL：www.uccard.co.jp



UCカード（一般カード）

UC にここにプレゼント

Q. 当社とのお付き合いの経緯を教えてください。

A. JFEシステムズさんとは、1993年に大手ベンダーを経由した協力会社の一社としてお付き合いが始まりました。1997年からはJFEシステムズさんと直接のお取引をさせていただくようになりました。

Q. 直接お取引いただけるようになったのは、当社のどの点をご評価いただけたのでしょうか。

A. 一番大きいのは、データベースの移行に関するノウハウや経験が豊富だったことです。現在のシステム「UNIVERSE（ユニバース）」の本番稼働時には、JFEシステムズさんの担当ではない部分までも細かくフォローしていただきました。

もう一つのポイントはレスポンスの速さです。JFEシステムズさんは、たとえば、カードの付帯サービスとして何か新しい商品を導入することになった際、カード業務はもちろんのこと、開発現場をよくわかっていらっしゃるの、即応力があります。また、コスト的にも見合う範囲で実現していただけるので有難いですね。

Q. 当記事を読まれている読者の中にもUCカード会員の方がいらっしゃると思いますが、具体的にはカード業務の中のどの部分のシステムを当社が担当させていただいているのでしょうか。

A. カードの入会申し込みに関するシステムです。住所や氏名などの個人情報扱う部分ですので、情報漏えいやセキュリティ対策がしっかりしたシステムでなければなりません。

また、カードのご利用金額に合わせてポイントが貯まり、素敵なプレゼントと交換できる「UCにここにプレゼント」というサービスにおいて、このポイントの点数管理やプレゼントとの交換に関する部分のシステムを担当していただいています。

最近ではETC、Suica、PASMOなどの交通系ICカードに関連したシステム対応もお願いしています。

Q. 今後当社に期待することをお聞かせください。

A. 社会環境変化に伴い対応すべき項目が増えてきていますので、システム構築に関しては従来以上にスピードやクオリティが求められます。早く安く品質の良いシステムを提供していただけるように、今まで以上に結果を出し続けていただきたいですね。今後も末永くお付き合いできることを期待しています。



システム開発部 シニアマネージャー 浦瀬康志様

プロジェクト担当者の声

私は初期段階からずっと担当させていただいています。UCカード様は人材が豊富なお客様で、窓口のご担当は、カード業務はもちろんのことシステムやアプリケーションについても良くご存知ですので、お互いに話がしやすい反面、よい意味での緊張感があります。コミュニケーションを密にしながら今後も良い関係を継続できればと願っています。



左：当社 東さん
右：ユーシーカード（株）浦瀬様

また、UCカード様は、上層部の方自らがカードの加盟店を増やすために動かれるような、常にお客様であるカード会員の方を意識されて活動される会社です。このような企業風土は、当社としてもぜひ見習いたい部分です。

（SIソリューション第2開発部担当役員補佐 東 賢造）

2006

2007

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



2006年度入社式



設計・製造ソリューション展



Mercuriusカンファレンス



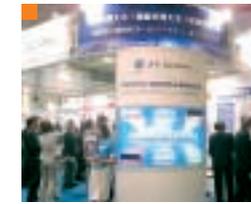
「MJ@lert」標準構成例



コープさっぽろとの共同会見



新本社ビル



関西 設計・製造ソリューション展



生産と設備管理のソリューション展

■ 4月

2006年度入社式
(35名入社)

新中期経営計画
(2006~2008年度) 策定

機関投資家・マスコミ向け
2006年度3月期決算説明会
開催 (東京・丸の内)

■ 5月

B2B (Business to Business)
ビジネスケースセミナーを
主催

「LinuxWorld EXPO/Tokyo
2006」(東京ビックサイト)
に出展

■ 6月

執行役員制度を導入
企業情報の「見える化」実
現セミナーを主催

メルクリウス
「Mercuriusカンファレンス」
を主催

■ 7月
B2Bビジネスケースセミ
ナーを主催

「第10回自治体総合フェア」
に出展

■ 8月

緊急地震速報の配信サービ
ス「MJ@lert」の事業開始

「第1回顧客満足度調査」を
実施 (8月~12月)

「電子帳票連携ソリューシ
ョンセミナー」を主催

■ 9月
「グループ会計ソリューシ
ョンセミナー」を主催

■ 10月

生活協同組合コープさっぽ
ろと新世代「電子食品カルテ
システム」の開発を発表

FIT2006 (Financial
Information Technology
2006)「金融国際情報技術
展」に出展

■ 11月

JFEスチール(株)新統合シス
テム (J-Smile) の円滑な立
ち上げにより、JFEスチー
ルIT改革推進部殿、(株)エク
サと共にJFEスチール社長
賞「最優秀賞」を受賞

「成功企業による最先端事例
フォーラム」に協賛

■ 12月
東京都墨田区へ本社を移転

■ 1月

(株)JALインフォテック、岩
崎通信(株)と、構内電話・
PHS・無線機への緊急地震
速報の配信で協業

(株)スマートスタイル社とオ
ープンソースビジネスで協業

世界最大級サプライチェー
ンソリューションプロバイ
ダーのElemica Inc.と提携

■ 2月

内部統制推進委員会を設置

■ 3月
医療システム事業をバスト
ラルコンピューターシステ
ム(株)へ譲渡

業務にかかせない「帳票」
から考える、変化に強いシ
ステム基盤構築の進めかた
セミナーを主催

連結貸借対照表(要約) 3月31日現在

単位:百万円

	2006年度	2005年度		2006年度	2005年度
資産の部			負債の部		
流動資産	11,996	11,599	流動負債	8,322	7,902
固定資産	5,001	4,740	固定負債	621	475
有形固定資産	1,768	1,846	負債合計	8,944	8,377
無形固定資産	1,380	1,408	少数株主持分		
投資その他の資産	1,852	1,484	少数株主持分	—	244
資産合計	16,997	16,340	資本の部		
			資本金	—	1,390
			資本剰余金	—	1,959
			利益剰余金	—	4,356
			土地再評価差額金	—	12
			その他有価証券評価差額金	—	△ 1
			資本合計	—	7,718
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	16,340
			純資産の部		
			株主資本	7,790	—
			資本金	1,390	—
			資本剰余金	1,959	—
			利益剰余金	4,440	—
			評価・換算差額等	11	—
			その他有価証券評価差額金	△ 1	—
			土地再評価差額金	12	—
			少数株主持分	251	—
			純資産合計	8,052	—
			負債純資産合計	16,997	—

連結損益計算書(要約) 4月1日~3月31日

単位:百万円

	2006年度	2005年度
売上高	33,948	33,725
売上原価	28,431	28,415
売上総利益	5,516	5,310
販売費及び一般管理費	4,238	4,239
営業利益	1,278	1,070
営業外収益	37	38
営業外費用	31	67
経常利益	1,284	1,042
特別利益	85	658
特別損失	710	740
税金等調整前当期純利益	659	960
法人税、住民税及び事業税	59	487
追徴税額	15	77
法人税等調整額	267	△ 128
少数株主利益	13	32
当期純利益	303	491

経常利益
23.2%増

JFEグループ企業向け統合リフレッシュ案件の増加により収益が拡大したこと及び金融業界向け売上が増加したことにより、前連結会計年度比23.2%増の1,284百万円となりました。

当期純利益
303百万円

当連結会計年度は、特別利益として事業譲渡益80百万円、貸倒引当金戻入益5百万円を計上し、特別損失として開発中止損失480百万円、本社移転費用132百万円、クレーム対応損失98百万円を計上いたしました。特別利益と特別損失の合計が前連結会計年度に比べ悪化したことから、前連結会計年度と比べ税金等調整前当期純利益が301百万円減少したため、経常利益は前連結会計年度比増益ですが、当期純利益は減益という結果になっております。

キャッシュ・フロー

営業活動により得られたキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益及び減価償却費の計上等の増加要因により、371百万円となりました。これに対し投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、無形固定資産を主とした固定資産の取得に加え本社移転に伴う敷金・保証金差入があり、1,109百万円となりました。これらを合計したネットの資金需要と配当金の支払等を短期借入金で賄い、短期借入金の純増額が870百万円となりました。その結果、財務活動により調達したキャッシュ・フローは643百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) 4月1日～3月31日 単位:百万円

	2006年度	2005年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	371	1,589
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,109	△ 640
財務活動によるキャッシュ・フロー	643	△ 941
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 95	7
現金及び現金同等物の期首残高	332	325
現金及び現金同等物の期末残高	237	332

連結株主資本等変動計算書 2006年4月1日～2007年3月31日

単位:百万円

	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	1,390	1,959	4,356	7,707	△ 1	12	11	244	7,962
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 219	△ 219					△ 219
当期純利益			303	303					303
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					△ 0	—	△ 0	7	6
連結会計年度中の変動額合計	—	—	83	83	△ 0	—	△ 0	7	90
2007年3月31日残高	1,390	1,959	4,440	7,790	△ 1	12	11	251	8,052

個別貸借対照表(要約) 3月31日現在

単位:百万円

	2006年度	2005年度
資産の部		
流動資産	10,302	9,676
固定資産	4,988	4,749
有形固定資産	1,734	1,805
無形固定資産	1,285	1,327
投資その他の資産	1,968	1,616
資産合計	15,291	14,425
負債の部		
流動負債	7,452	6,793
固定負債	168	55
負債合計	7,621	6,849
資本の部		
資本金	—	1,390
資本剰余金	—	1,959
利益剰余金	—	4,214
土地再評価差額金	—	12
資本合計	—	7,576
負債資本合計	—	14,425
純資産の部		
株主資本	7,657	—
資本金	1,390	—
資本剰余金	1,959	—
利益剰余金	4,307	—
評価・換算差額等	12	—
土地再評価差額金	12	—
純資産合計	7,670	—
負債純資産合計	15,291	—

個別株主資本等変動計算書 2006年4月1日～2007年3月31日

単位:百万円

	株主資本							評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金						
2006年3月31日残高	1,390	1,959	1,959	67	3,530	616	4,214	7,564	12	12	7,576
事業年度中の変動額											
剰余金の配当						△ 219	△ 219	△ 219			△ 219
当期純利益						313	313	313			313
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						—	—	—			—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	93	93	93	—	—	93
2007年3月31日残高	1,390	1,959	1,959	67	3,530	709	4,307	7,657	12	12	7,670

ON

入社以来、数々のパッケージソフトの開発に携わってきた山本氏。最初の配属先ではシステムエンジニアとしてファイル転送ソフトの開発・保守に従事していたが、販売拡大を強化するために営業支援に異動し、競合製品との勝ち負けの世界でパッケージ商品の売り方を体験した。次に所属したデータウェアハウス事業では、担当商品が海外のものだったこともあり、外資系ならではの製品戦略、訴求力、提案方法を学んだ。これらの経験を元に、いつか自社オリジナルの新しいパッケージ事業を企画から全て自分でやってみたいと目標を持った。そうした中で生まれたのが、05

年に政府から表彰された品質情報管理システム「メルクリウス」だ。「メルクリウス」は大手食品メーカー50社以上に導入されているにも関わらず、彼は冷静に分析する。「メルクリウスは“やる気”と“思い込み”で開発し、たまたま市場の“運”が味方して流れに乗れた」と。次こそ企画段階でリサーチし、“最初から売れる商品”を作りたいと1年以上をかけて構想を練った。そして07年5月、製法管理システム「キューベル」が完成した。パッケージ商品は将来性がなければお客様に安心して導入してもらえない。これからが本当の勝負だと言う。

社員紹介

プロダクトソリューション開発部
DBグループ

山本 公一さん

(やまもと こういち)

京都府出身。1991年入社、ビジネスシステム部門配属。94年ファイル転送ソフトの開発・保守、97年データウェアハウス事業の支援、02年品質情報管理システム事業の立ち上げを経て、07年製法管理システム「キューベル」の企画・開発を担当。

山本氏から見たJFEシステムズについて聞いてみた。

「アイデアや企画の出し方によっては、新しいことをやらせてもらえる会社。縦横のコミュニケーションも悪くない。メルクリウスもキューベルも、賛同してくれる上司や仲間を支えられて形になった。後輩達にも自分の夢や目標の実現に向かってどんどんチャレンジしてもらいたい」

仕事がピーク的时候には休日に出社することもしばしばあるが、完全に休みの時間が取れるときには、映画鑑賞や、登山、スキー、野球、熱気球…などのアウトドアスポーツを楽しむ。また、昔は苦手だったお客様との飲み会に最近は積極的に参加している。やはり、「飲みニケーション」も大切なことだと悟ったとのこと。信条は、「なんとかなる」ではなく「なんとか“する”」。

Corporate Data 会社概要 (2007年3月31日現在)

回 会社の概要

社名 JFEシステムズ株式会社
JFE Systems, Inc.
設立 1983年9月1日
資本金 1,390,957千円
従業員数 1,313名

回 取締役および監査役 (2007年6月22日現在)

代表取締役社長 岩橋 誠
取締役 谷利 修己
取締役 堀田 善一
取締役 畠山 廣造
取締役 原 誠
取締役(社外) 菊川 裕幸
常勤監査役 南部 正悟
常勤監査役(社外) 戸部 俊一
監査役(社外) 若林 莊太郎
監査役 西川 廣

回 執行役員体制 (2007年6月22日現在)

社長(CEO) 岩橋 誠
専務執行役員 谷利 修己
専務執行役員 堀田 善一
常務執行役員 畠山 廣造
常務執行役員 原 誠
常務執行役員 野村 信三
執行役員 浅野 有一郎
執行役員 宮原 一昭
執行役員 杉 充
執行役員 清原 庄三
執行役員 福村 聡

回 本社所在地

〒130-0012 東京都墨田区太平四丁目1番3号
TEL.03-5637-2100 FAX.03-5637-2400

回 株式の状況

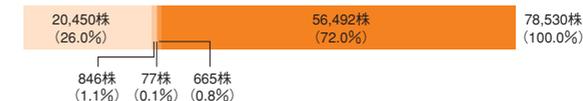
発行可能株式総数 338,050株
発行済株式総数 78,530株
株主数 2,520名

回 大株主

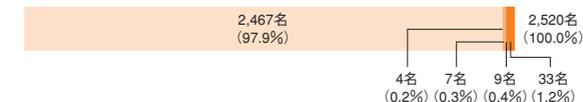
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
JFEスチール株式会社	51,165	65.2
JFEシステムズ社員持株会	4,831	6.2
富士通株式会社	2,500	3.2
アトラス情報サービス株式会社	500	0.6
JFEアドバンテック株式会社	500	0.6
JFE電機株式会社	500	0.6
JFEメカニカル株式会社	500	0.6
中央三井信託銀行株式会社	500	0.6
JFE物流株式会社	500	0.6
日本証券金融株式会社	341	0.4

回 株式分布状況

<持株数別株式分布の状況>



<所有者別の株主数>



■個人その他 ■金融機関 ■証券会社 ■外国法人等 ■その他国内法人

OFF